

EM フォーラム in 南部 事例発表

<発表その2>

「三重県四日市市の活動」

NPO法人イーエム市民広場

理事長 小川 敦司さん（三重県）



【発表内容】

小川氏は平成10年、大谷台小学校のPTA会長を務めたことをきっかけに、環境学習を通して、EMの普及活動に取り組み始めた。

プールの水質浄化にEMを活用する中、試験的にメダカを放流したところ大増殖し、このメダカを近くの堀川に放流したが、汚染がひどくメダカが全滅してしまった。

そこで、プールのようにEMで堀川をきれいにしたいという子供たちの発案で、浄化活動が始まった。



大谷台小学校の活動の様子（TV取材中）



山手中学校の活動の様子

この活動を継続する中、次第にPTAや地元ボランティアの協力が得られるようになり、近隣の山手中学校、海蔵小学校も活動に参加。三校共同による浄化活動へと発展した。

その結果、ウナギが見られる程に浄化が進み、この活動が評価され、平成16年、四日市文化振興会から表彰されるに至った。



ウナギの生息を確認



四日市文化振興会より浄化活動を表彰

また、平成 12 年からは四日市市で最も汚染のひどい阿瀬知川の浄化に取り組み始めた。活動当初は、EMで浄化できることなど誰も信じなかったが、徐々に活動を大きくすることで見事にヘドロが消え、錦鯉を放流できるようになった。この成果に地元自治会も共鳴し、企業住民を取り込む活動へと発展。平成 20 年には、アユの遡上が確認され、地元メディアで大きく紹介された。



以前の阿瀬知川の支流



EM投入後の阿瀬知川の支流（砂地が確認できる）



以前の阿瀬知川



EM投入後の阿瀬知川（ヘドロの減少が確認できる）



阿瀬知川に様々な魚が戻ってきました



昨年秋には鮎の遡上も確認されました

阿瀬知川の成果を受け、地元の漁協から海の浄化に取り組みたいと問い合わせが相次ぎ指導を行う。鈴鹿市漁協は、渚池の浄化に着手し、ヘドロの減少、水草や魚類など生態系の再生が進んでいる。



鈴鹿市漁協でEMを培養



ボラの稚魚が大量に遡上

また、四日市漁協では、魚のいけすで毎月 50t のEM活性液を培養し、港内の浄化活動を始めている。ヘドロの減少だけでなく、港付近のアサリが大きくなるなどの効果が現れており、今後は投入範囲の拡大も考えている。



四日市漁協と大阪市漁協との意見交換



12t の水槽を 2 基使って EM を培養



毎月、50t の E M 活性液を投入



浄化している港内のアサリ（右） と同地域の一般的なアサリ（左）

現在、愛知県でも地元ボランティアの活動によって、矢作川や三河湾の浄化が進んでいる。この活動者同士で手を取り合い、伊勢湾の浄化にも邁進していきたいと発表を締めくくった。

【最後に阿瀬知川にアユが遡上したことを確認した時の V T R を上映】